

	高知大学 学際分野
学部等の教育研究 組織の名称	人文学部（第1年次：295名、第3年次：10名） 総合人間自然科学研究科（人文社会科学専攻）（M：10名）
沿 革	大正 11（1922）年 高知高等学校設置 昭和 24（1949）年 高知大学文理学部設置 昭和 52（1977）年 文理学部を改組し人文学部設置 平成 11（1999）年 人文社会科学研究科設置 平成 20（2008）年 6研究科（人文社会科学、教育学、理学、医学系、農学、黒潮圏海洋科学）を改組し総合人間自然科学研究科設置
設置目的等	<p>昭和 24（1949）年に、人文科学、社会科学、自然科学の各分野にわたる総合的な教授及び研究に重きを置き、広い基盤に立つ専門教育を与えることを目的として、男女共学の文理学部が設置された。</p> <p>昭和 52（1977）年に、近年の学術研究のめざましい進展と専門分化の傾向、進学率の上昇に伴う地方大学の整備の必要性等から、文理学部を改組し、人文学部、理学部が設置された。</p> <p>平成 11（1999）年に、地域社会の要請にこたえ、人文科学・社会科学諸分野の学際的結合を基盤に、多彩で柔軟な教育プログラムを創出し、変貌する地域社会の発展に貢献し得る人材を養成することを目的として、人文社会科学研究科が設置された。</p> <p>平成 20（2008）年に、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、諸学術の進歩と人類福祉の向上に寄与すること、及び高度の専門性が求められる職業を担うために深い学識と卓越した能力を培い、文化の進展と社会の発展に貢献することを目的として、6研究科（人文社会科学、教育学、理学、医学系、農学、黒潮圏海洋科学）を改組し、総合人間自然科学研究科（人文社会科学専攻）を設置した。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>【総論】</p> <p>○ 高知大学における学際分野においては、真理の探究を図るとともに、高知県を中心とした四国地域における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。</p> <p>引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。</p>

【教育】

(学部)

- 人文社会科学の学問分野の教育研究を通じて、「人間・国際・地域」をキーワードに、専門分野の学習と関連分野を含めた幅広い教養に基づく柔軟な思考力を身に付け、グローバルかつローカルな視野を持ちながら社会で広く活躍できる人材とともに、日本語教員養成カリキュラムを通じて国内外の日本語教育現場で活躍する人材を養成する。
- このため、人文社会科学の各分野を網羅した専門教育を具備するとともに、卒業論文を到達点とする4年間の体系的な教育課程を編成しつつ、実社会との連携授業・フィールドワークにも取り組んでいる。
さらに、グローバル社会に対応すべく、言語・文化・グローバル社会の3分野と国・地域の組合せによる教育プログラムを実施するとともに、海外でのスタディツアー等の「国際社会実習」や日本語を教える「日本語教育実習」に取り組んでいる。
- これらの取組を通じて、卒業生による海外での日本語教育への貢献、英語力の養成に基づく学生による英字新聞の定期的発行などに能力がいかされている。
- 今後、科目ナンバリングの実質化などにより、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、学部横断プログラムの開設、カリキュラム改編などにより組織的な教育体制等を整備する。また、オンライン学習システム（SOULS）や自律学習支援センター（OASIS）の活用促進により、学生の能動的学習を促す教育を実施する。さらに、学習ポートフォリオなどを用いながら可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

(大学院)

- 人文社会科学における総合的な専門知識や調査技法を有し、高度な論理的思考力及び表現力を有する専門職業人を養成する。
- このため、共通総合科目として地域の問題を学ぶ「総合高知研究」で実践的な教育カリキュラムを実施するとともに、幅広い学識・高度な専門知識・論理的思考力・総合的表現力の涵養に取り組んでいる。
- これらの取組を通じて、国内外で日本語教員となった修了生ならびにリカレント教育を受けた社会人は現場で高い評価を受けている。
- 今後、専門分野をさらに明確にした教育コースを編成するなど、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

【研究】

- 人文社会科学分野の研究実績をいかし、「黒潮流域圏」に関する研究を

はじめ、歴史学や地域経済学などのアプローチによる地域研究などに取り組んでいる。

- これらの取組の中で、近代・高知の国際交流に関する貴重資料をアーカイブス化し、国内外の教育・研究機関に広く提供している。
- 今後、異分野の教員の総合的な研究を組織的に推進し、高知人文社会科学会など「高知の視座」に基づく地域のシンクタンク機能としての役割を強化するとともに、受託・共同研究などを通して高知県を中心とした四国地域の課題解決・文化の発展に組織的に取り組む。

【その他】

- 人文社会科学の幅広い分野にわたって、全教員が高知県の市町村および産業界に対して地域づくりの観点から提言を行っている。
- 全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織の在り方、規模等の抜本的な見直しに取り組む。また、学部の入学辞退率の改善のため、入試制度の改善や魅力あるカリキュラムの再構築、定員規模の見直し等に取り組む。